

E メールニュースNo.381 (号外)

各会から活動報告が寄せられています。うち、二つを(号外として)紹介します。

(1) 名取九条の会から

11月21日、名取九条の会、新日本婦人の会宮城県本部、宮城県平和委員会は名取市山田司朗市長に、市のイベントへの自衛隊特殊車両の展示中止と氏タイポ応の武器携帯写真掲載の抗議申し入れを行いました。

11月3日に名取市で開かれた「ふるさと名取秋まつり」が開かれ、自衛隊の展示コーナーにお大きな砲塔を備えた MCV (機動戦闘車) が展示されました。さらに数日後、山田市長が SNS に同社寮の前で自動小銃のモデルガンを買って構えている写真を掲載しました。そのことについて、抗議文を手渡し、抗議しました。

市は、展示は任せていたが事前の確認が十分ではなかったとして、今後は同様の車両を展示しないようにする、申し入れの内容は市長に伝えると回答しました。

抗議文を掲載します。

(赤旗 11/24 掲載)

市長が戦闘車前で銃を…SNSに写真 平和団体が抗議



宮城県平和委員会、新日本婦人の会宮城県本部、名取九条の会は21日、宮城県名取市で山田司朗市長に対し、市のイベントへの自衛隊特殊車両の展示中止と、市長の武器携帯写真掲載の抗議申し入れをしました。

11月3日同市で、3年ぶりに物産展を中心とする「ふるさと名取秋まつり」が開かれ、自衛隊の展示コーナーに大きな砲塔を備えた MCV (機動戦闘車) が展示されました。さらに数日後、山田市長が SNS に同社寮の前で自動小銃のモデルガンを買って構えている自身の写真を掲載していました。

9条の会の後藤不二夫代表世話人が、応対した我妻諭副市長に抗議申し入れ書を手渡し、「市の管理下で兵器の展示と、こういう行為があったのは非常に問題です」と指摘しました。

県平和委員会の橋元森雄理事は、「ウクライナであれほどの戦争が行われている中でのことです。市長は公式にコメントを発表すべきです」と強く抗議しました。

市側は、展示内容は自衛隊に任せていたが事前の確認が十分でなかったとして、今後は同様の車両の展示をしないようにする、抗議内容は市長に伝えると回答しました。

県平和委員会はこの日、陸上自衛隊東北方面総監部にも抗議と申し入れをしました。

抗議の申し入れ書を手渡す後藤氏(右) 11月21日、宮城県名取市

(名取市長宛の抗議文)

2022年11月21日

名取市長 山田 司朗 殿

宮城県平和委員会

常任理事 橋元 森雄

新日本婦人の会宮城県本部

名取支部長 高橋美恵子

名取9条の会

代表世話人 後藤不二夫

「ふるさと名取秋まつり」への自衛隊特殊車両展示中止と、 市長の武器携帯写真掲載に対する抗議申し入れ

コロナ禍にありながらも名取市民の健康と生活の安定・向上に尽力いただいていることに感謝申し上げます。

11月3日・文化の日に3年ぶりの「ふるさと名取秋まつり」が盛大に開催されました。数多くの物産販売、ブース展示等には多くの市民が訪れ、「豊穰の秋、芸術の秋を謳歌するふるさと名取秋まつり」にふさわしいイベントになったと思います。

しかし、訪れた人々の中に違和感を持ったと指摘している展示があります。自衛隊特殊車両展示コーナーです。豊穰の秋、芸術の秋のイメージとはかけ離れた展示でした。武器は人を殺める兵器であり、平和な共同社会の実現と人間賛歌を創造する”まつり”とは相いれません。

11年前の東日本大震災では、多くの自衛隊員の皆さんに言葉では尽くせない支援と協力をいただきました。自衛隊員への感謝の気持ちは多くの人々の共通の認識です。

しかし、私たちは武器を持ち戦場に赴かなければならない自衛隊員に同情こそすれ、決して”良し”とはしません。秋まつりを訪れた多くの人々は、ここにこそ違和感を覚えたのではないのでしょうか。武器を前にした自衛隊員の姿と、11年前の自衛隊員の姿にはあまりにも隔たりがあったのです。

もう一つ驚かされたのは、SNS上に掲載されている、戦車のような車をバックに自動小銃をかまえた市長の姿です。

これまでも学校などで自衛隊の兵器が展示され、子どもたちが触る事件が何度かありました。その度、保護者や社会から不適切な行事と指摘され、行事を見過ごした教育委員会では謝罪等を行い、不適切な行為との認識を示して来ました。

自動小銃をかまえる市民の代表である市長の姿に違和感と嫌悪を覚えるのは当然のことです。戦争の武器である銃口の先にあるのは常に善良な市民だからです。

連日テレビ等で報道されるウクライナの悲惨な姿に、多くの人々は「今すぐ戦争は止めて欲しい」の願いを持っています。なぜ、秋まつりにこのような展示を行い、市長は戦闘を鼓舞するようなパフォーマンスを行ったのでしょうか。改めて市長、さらには関係者の皆様に以下の要請と抗議を行うものです。

記

1. 自衛隊特殊車両展示はいつから行って来たのか。またどのような経緯で行ったのか。
2. 来年の「ふるさと名取秋まつり」からは、このような自衛隊特殊車両や武器の展示を止めること。
3. 銃をかまえた市長の写真をネット上にアップしたことは、教育的にも社会的にも大きな問題と考える。写真をアップした経緯、理由等を市民に示し、深い反省を求める。

(2) 多賀城9条の会から

多賀城海軍工廠跡地巡りツアー

10月22日、4年ぶりに多賀城海軍工廠の跡地を巡るバスツアーが開催されました。

この日は、多賀城、松島、奥松島と戦時中の史跡を探訪しました。

参加者は総勢25名。「図説・多賀城海軍工廠」を作成した藤原益栄さんが豊富な知見をもとに詳しくガイドしました。多賀城では、現在の市の1/4の面積を占める火工部（弾薬など製造）、機銃部（ゼロ戦搭載の20ミリ機銃製造）の跡地を見学し、今は、面影だけを残す場所を巡回し、多賀城は、大規模な軍需工場だったことがわかりました。

松島では、多賀城の軍事工場が、戦争末期、松島の地下に移され、暗闇に沈む地下壕と化した軍事製造工場の跡を訪れ、当時の状況に驚きました。

奥松島では、「震洋」という小型船に250Kg爆弾を積んで敵艦にあたるという無謀な計画実行に対して体当たりする「人」はいても、船（材料）がないという戦争末期の悲惨な状況に一同消沈しました。

松島の地下壕は、入ったら迷路で、当時の人たちが苦勞して、作り上げたものなので戦争遺産として、残せないだろうか強く感じました。松島町北小泉で育った参加者（女性）は、「松島にこんなところがあったとは…」と絶句していました。多賀城から参加したS氏は、「今回、見るのも、聞くのもはじめて、ほんとにびっくりした。いままで全く知らなかった。」と感想を述べました。今回のツアーは久しぶりでしたが、「戦争がもたらす人々の苦悩」を表に浮かせ、現代を考えるツアーとなりました。（鈴木利次）

『百聞は一見に如かず』を実感！「貴重な戦争遺跡は後世に残したい」後藤行男さん（塩釜市）

念願だった多賀城海軍工廠ツアーに参加しました。以前から参加したかったものです。多賀城市面積の4分1が強制買い上げされ人口が2倍以上になった歴史、これを抜きに多賀城市は語れないとの藤原さんの言葉は胸に落ちました。

多賀城市内巡りは新しい発見の連続。渡された地図と藤原さんの説明に当時に思いを馳せました。勤め上げた桜木の職場の一部と寮があった栄は工廠内です。

私が所属する国賠塩釜支部は、毎年坂猶興墓前祭で北仙台の日浄寺に墓参しますが、坂定義の墓石が多賀城公園内の旧西園寺にあった事実は新しい発見でした。松島高城町山中に造られた大規模な地下工廠跡、懐中電灯を照らして歩いた巨大空間は圧巻です。藤原さんが参加費2,500円の内2,449円分の価値と言ったのには頷けます。手付かずで荒れていますが後世に残すべき貴重な戦争遺跡だと思います。震災遺構が被害を語り続けるように、戦争遺跡は後世と子供たちに平和の大切さを伝えてくれます。

最後に訪れた奥松島の第146震洋隊基地跡。震洋は米軍艦船への体当たりする小型船舶、敗戦で出撃はなかったそうですが震洋も基地の存在も私は初めて知る事実でした。とても貴重な体験ができました。これらの歴史と遺跡にもっと光が当たるよう私も頑張りたいと思います。